



# さわやか

平成 28 年 10 月 27 日  
特定非営利活動法人  
青葉台さわやかネットワーク  
TEL 0436 (62) 8215  
FAX 0436 (62) 8205  
E-mail: asn\_3247\_ichihara\_299\_0117@ybb.ne.jp  
発行責任者 西原 清隆

## 認定NPO法人へのご寄付のお願いと御礼

理事長 5丁目 西原 清隆

寒暖の差が大きい日々が続いています。皆様には御身ご自愛され、ご健勝であられるようお祈りいたします。さて、平成28年度も下半期に入りました。

恒例により10月から「平成28年度寄附金の募集」を開始しました。ご寄附のお願いは「認定NPO法人の資格継続基準(3千円以上の寄附者が毎年100名以上いること)」の一つであります。募集期間は来年3月末日ですが、まだ広域関係の方にはご案内を発送していない状況です。ところが、青葉台地区にご案内したところ、例年よりハイペースでのご協力を頂く状況にあり、大変心強く嬉しい思いであります。

平成25年度から同じ時期に募金活動を行っていますが、今年度はメンバーの皆様の動きが特別に早いと感じます。最近の入会希望や有償サービス新規申込などの様子から私なりにその理由を分析しますと、①口コミ・仕事の出来栄・団体活動の問合せ。②認定NPO法人の継続基準が理解されてきた。③ご本人のボランティア精神。④振込み票の利便性。⑤忘れないうちに寄附してしまおう(失礼!)。等々が、考えられます。



これは、「青葉台さわやかネットワーク」に対する皆様の関心や期待度が大きくなったものと思われまます。私たち協力活動者にとって、大きなやりがいとともに励みとなります。皆様と共に地域の助け合い精神が発展する様に努力したいと思います。今後とも、ご支援ご鞭撻を賜りますようお願いしご寄附の御礼を申し上げます。

## ～助け合いの原点を語る～

さわやか相談員 5丁目 辻川 和人

### 親も子も 自立・自助の時代

以前の家族制度では親が子を育て、親が老いたら子が世話をする、順送りの人生でした。ところが核家族の時代になってからは「いのち」を受け継いでいくあり方が変わってきました。

子が結婚したら、親の戸籍から離れて独立します。子は自分の家族を守る責任と義務があります。ですから、親は子に頼ることを控えなければなりません。子と親は、それぞれに自立・自助の人生です。これが個人の意義を認めた新しい時代を生きていく親と子の姿です。

### 老後の孤独への準備

街で知人に会ったとき「お元気そうですね」と、言葉を掛けて下さいます。その通り、元気そうなので、元気ではありません。降圧剤も飲んでおります。

私か妻か、どちらが先かわかりませんが、いつかは孤独となります。これは間違いありません。その時を思って、妻に任せきりだった家事で、自分でやれそうなことは自分の仕事として努めているところです。妻の長い年月での苦勞に気づきますし、自分の仕事とした以上、不十分でも腹を立てることはできません。少しずつ一人になったときのことを思って心の準備に入っております。そして、万一のときは、さわやかネットワークのお世話にならなければならないと思っています。

優先席 譲り譲られ 綿日和 和人



## 青葉台に学童保育の事務所完成

—地域活動の拠点として空き家を活用—



理事 1丁目 高柴安子

8月21日(日)に学童保育事務所が青葉台1丁目に移転しました。空き家を改装した新事務所です。1階は学童保育事務所、2階は地域の様々な活動に使用しています。現在、青葉台さわやかネットワーク



は、青葉台・有秋地区・千種地区の8つの学童クラブを運営しており、約300名の児童が入所しています。児童は、学校が終わると各学童クラブに来て、保護者が迎えに来るまで、支援員に見守られながら、宿題などの学習をし、おやつを食べ、好きな遊びや活動をして過ごしています。

事務所では、各学童クラブが安全で安心した活動ができるよう、毎日、学童クラブとの連絡・調整に当たり、支援しています。事務所が、青葉台に移転してから、仕事をする上でとても活動しやすくなりました。朝、事務所に行き、夕方また事務所に足を運ぶ事が私の楽しい日課となりました。市原市は、今後、待機児童解消のため、学童保育事業に力を入れて下さると聞いております。これまで以上に、保護者の皆様に、信頼していただける学童保育運営をして参りたいと思います。事務所移転を機に、学童保育への理解や子育て支援の輪が広がっていく事を願っております。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。



### 青葉台小第2児童クラブ オープン

7月より、第1の隣に、第2児童クラブが開所しました。年度途中の開所で、入所児童は12名でしたが、第1クラブは48名いますので、青葉台は60名の入所児童となっています。これからもアットホームな居場所作りを目指して充実した活動をしていきますので、温かいご支援をお願い致します。



## 下期のイベント情報

副理事長 6丁目 本名幸作

イベント名	日時	場所
さわやか祭り	11月3日、10:00~12:00	青葉台中央公園
交流茶話会、第1回	11月6日、10:00~12:00	自治会館
交流茶話会、第2回	11月27日、10:30~12:30	みどりが丘集会所
さわやか餅つき大会	12月23日、10:00~12:00	青葉台中央公園
さわやか新年会	1月29日、10:00~12:00	自治会館

新年会参加は会員ですが、さわやか祭り他のイベントには地域のみなさんご参加を歓迎致します。



# 活躍する協力会員の紹介(11)

## 運営委員 5丁目 山村 三喜男

憩いの家「廣子」は3年目、来訪者は延べ1000名超える

平成25年春、相談役山田さん宅(5丁目)で、憩いの家「廣子」がオープンしました。市原市職員を含む多数の関係者、近隣の居住者も参加し、盛大に開催されました。「廣子」は故人となられた山田さんの奥様を偲んで命名されたもので自分たちの地域からは孤独死などは出たくないとの強い思いも関係者の共通の気持ちであります。そのためには近くに高齢者の居場所が必要であるとの思いから山田



さんは自ら自分の住まいの1階部分をリフォームしその場所として提供されました。

運営の方法、開所日の設定、利用者の勧誘・PR、当番協力者の確保等を関係者と協議を重ね、試行錯誤を繰り返し、2年目、3年目と経過し、現在に至っています。楽し



い時間を如何に皆で創り出すかがポイントです。比較的成功した4つを紹介します。①お茶と軽食(主にうどん類)を有償で提供(当番さんの役目)、②地域有志による興味ある講話(例:老いを生きる:5丁目会員の辻川氏)、③高齢者にあった合唱歌のギター伴奏(5丁目在住の角田氏)、④最近の出来事として、42インチテレビ画面でのカラオケがみなさんの人気で、積極的に楽しんでいます。尚、テレビ・カラオケ設備は山田さんの提供です。最近、5丁目以外からの利用者も増加しています。



憩いの家「廣子」を継続的に運営するためには、全体をコーディネートする担当者が必要です。スタート当初は、深田さん(故人)でしたが、この地域の運営委員も私が引継ぎ、現在に至りました。現在も、今後も「当番の確保」が課題であると思います。

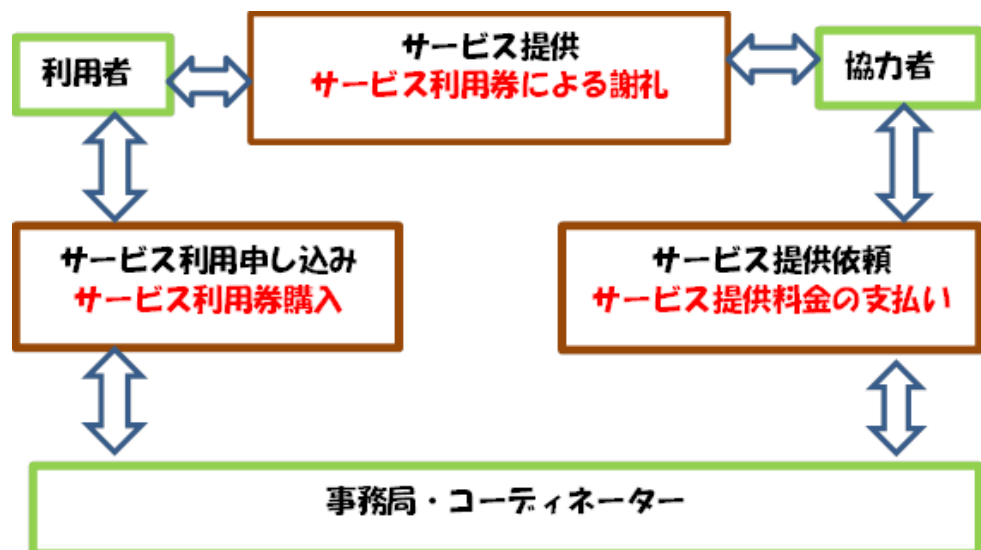
10月現在の当番(協力者)は次の9名です(敬称略)。伊藤紀代子、山村千恵子、近藤郁子、飯沼しづ子、吉森末子、三井由美(5丁目)中田美枝子(4丁目)、北英子(6丁目)、明吉美千恵(7丁目)。



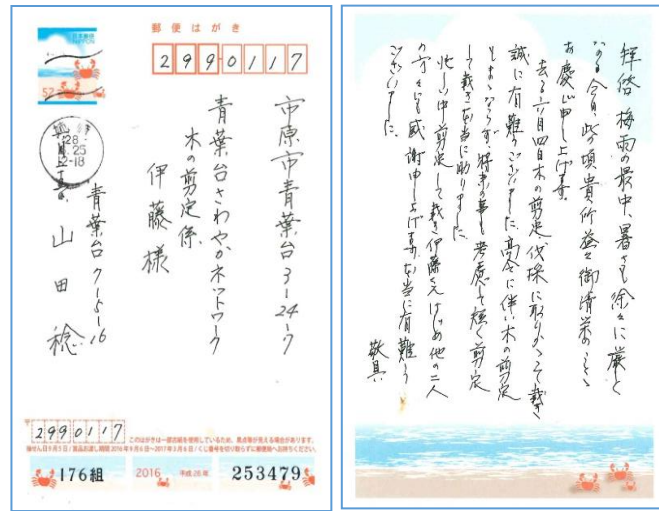
# サービス利用券の仕組み・運用・管理について(2)

## 副理事長 1丁目 高柴 正義

1. 仕組み; 下図のとおり
2. 運用 ; 移送サービス、家事援助などの少額のサービス有償サービスの謝礼として活用



3. 目的; 現金を介さずにサービスの授受ができます。
4. 管理; 利用券のナンバーにより利用状況は厳重に管理されています。
5. 課題; 休眠利用券が増えています。不要になった券は買い戻します。



利用された方からのお礼状も届きます(上は剪定Gへの礼状です)。

# 寄付金ご支援者のご紹介

青葉台さわやかネットワークは、地元の商店、医院、企業の皆さんからもご寄付頂いております。誠にありがたく、この場をお借りして、感謝を申し上げます。

青葉台地区  
理容 ヒサオ 様  
地域を支えるお店  
電話: 0436-62-3600



# 事務所当番の紹介

青葉台さわやかネットワークの事務所では、平日の午前9時から午後4時まで、下記のメンバーで当番勤務をしております。



後列左から、高柴、梅崎、山村、黒川、岩崎、本名  
前列左から、甲斐、中村、柿田、真野、藤井(敬称略)  
宜しくお願ひ致します。

# 新入会員のご紹介...よろしくお願ひします

総計 817 名超になりました。(敬称略、順不同、平成 28 年 9 月末現在) 28 年 6 月以降の新入会員

- (2丁目) 曾根 富士子、(4丁目) 岡田 郁子、(6丁目) 竹本 幸恵、(姉崎) 光井 克典、関田 登美子、山川 秀子、山川 敏彦、(泉台) 高田千鶴子、園 孝之、山浦 邦代、山浦 隆、(桜台) 武田 毅、(椎津) 藤井 八重子、(椎の木台) 古瀬 美子、(町田) 佐々木 源四郎、佐々木 規乃、(不入斗) 時谷 暢明、(中高根) 小林 静江、(川崎市) 川副 栄子、



ASN事務所の草花: マリーゴールド、10月下旬

編集後記 : 会員同士、協力会員と利用会員、地域の方と会員の間を取り持ち、交流の場を盛んにしたいと思います。そのきっかけとなるご意見やお便りをお寄せください。地域のために、少しでも行動しましょう。(本名幸作)